

第1回下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会会議録

日 時 令和元年12月9日10:20～11:20

会 場 下関市教育センター 3階 中研修室

出席者 静屋、天野、赤堀、金子、原田、大井、前田、川口、松永、村尾、内山、北尾  
各委員

【事務局】児玉教育長、竹内部長、藤田部次長、三井部次長、学校教育課長、生徒指導推進室長、教育研修課長、学校支援課長、学校保健給食課長、菊川教育支所長、豊田教育支所長、豊浦教育支所長、豊北教育支所長、教育政策課（課長補佐、主査、企画係長、主任、適正規模アドバイザー）

- 議 題 (1) 会議の公開について  
(2) 市立小中学校の現状と現行計画の進捗状況について

発言者	内容
事務局	<p>ただ今から、第1回下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会を開会いたします。</p> <p>次第の2、会長及び副会長の選出であります。</p> <p>お手元の資料2「下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会規則」をお願いいたします。規則第4条で、検討委員会には、会長及び副会長を置くこととされており、これから会長、副会長を選出したいと思います。なお、規則の第5条第2項におきまして、会議の議長は、会長をもって充てるとされておりますが、会長が定まるまでの進行を教育委員会の藤田部次長が務めさせていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>ご異議がないようですので、藤田部次長、よろしくをお願いいたします。</p>
藤田部次長	<p>それでは、会長が定まるまでの間、議事の進行をさせていただきます。</p> <p>着座にて失礼いたします。</p> <p>はじめに、会長及び副会長についてご説明をいたします。お手元の資料2、検討委員会規則の第4条であります。第3項で会長は、会務を総理し、委員会を代表するとされております。副会長につきましては、第4項において、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理するとされております。また、第5条第2項でございますが、会議の議長は、会長をもって充てるという事となっております。</p>

発言者	内容
委員	<p>では、ただ今から、規則第4条第2項の規定に基づきまして、会長の互選を行っていただきたいと思います。</p> <p>自薦、他薦を問いませんので、どなたかご推薦いただける方はいらっしゃいませんか。</p>
藤田部次長	<p>(挙手)</p> <p>はい。お願いいたします。</p>
委員	<p>山口大学の静屋先生をご推薦いたします。</p> <p>ご専門が教育行政を研究なさっておられますし、学校現場のこともご経験がおありでよくご存じでいらっしゃいますので、是非静屋先生に会長をやっていただきたいとご推薦申し上げます。</p>
藤田部次長	<p>ただ今、静屋委員を会長にとご推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし</p>
藤田部次長	<p>ご異議なしということでございますので、静屋委員さん、会長就任をお引受けいただけますでしょうか。</p>
静屋委員	<p>はい。謹んでお受けします。よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>よろしく申し上げます</p>
藤田部次長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは静屋会長には、会長席への移動をお願いいたします。</p>
	<p><b>静屋会長、会長席へ移動</b></p>
藤田部次長	<p>それでは改めまして静屋会長、一言ご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	<p>失礼します。ただいま会長の推薦をいただきました静屋と申します。</p> <p>私は、現在教職大学院を担当しております、そちらでずっと下関市に関らせていただいて、それまでも教育委員会の時に色々な折に学校訪問させていただきました</p>

発言者	内容
	<p>て、下関の先生方のすごく熱心なところ、地域の熱い思い、それから子供達のもとても素直で、明るくて、一生懸命なところをたくさん見てまいりました。</p> <p>先程、辞令交付の際に児玉教育長もお話をされましたように、これから10年先、20年先の未来を考えていくときに、一番の財産はやはり子供達であり、そしてそれを支えていく大人、地域であると思っています。</p> <p>この会におきまして、これからの下関市の未来のもとになる色々な制度とか取り組みとか、そのことを色々な形で考えていくことになると思いますので、我々としても、また私としても一生懸命取り組んで子供達の未来が輝く、そんな気持ちでやっていきたいと思っています。</p> <p>それから、山口県はご存じのように、高等学校も含めて、来年4月にはすべての学校がコミュニティスクール、100%になります。そういった意味もこの取り組みの中に存在していると思いますので、子供達の未来を保障するとともに、これからの地域づくりのあり方とかいうのも一緒に、コミュニティスクールでは考えているところですので、併せてしっかり考えていきたいと思っています。</p> <p>どうぞよろしくお願いします。</p>
藤田部次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今後の議事進行については、静屋会長にお願いしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>では、次第に従いまして議事を進行させていただきます。引き続き、副会長の互選を行いたいと思います。</p> <p>副会長につきまして、自薦、他薦を問わず、どなたかご推薦いただける方はいらっしゃいませんか。</p>
委員	はい。(挙手)
会長	お願いします。
委員	<p>副会長につきましては、保護者からの選出が望ましいかと思っています。先日、私、東部地区のPTA研修会で講演させていただきましたが、その際、松永委員の大変熱心な教育に対する思いを汲み取ることが出来、色々ディスカッションさせていただきましたので、是非、松永委員にお願いしたいと思っております。</p>
会長	ただ今、松永委員とのご推薦がありました。皆様いかがでしょうか。

発言者	内容
委員	異議なし
会長	ご異議がないようですので、松永委員さん、副会長就任をお受けいただけますでしょうか。
松永委員	微力ですがよろしく願いいたします。
会長	では、松永委員、副会長席へお移りください。
<div data-bbox="336 763 730 801" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">松永副会長、副会長席へ移動</div>	
会長	では、松永副会長、一言ごあいさつをお願いします。
副会長	<p>改めまして、おはようございます。松永と申します。</p> <p>私は、15年位前から下関商工会議所であったり、下関21協会であったりとまちづくり活動をずっとやってきて、PTAに関して5年くらいですが、これまでずっとより良い地域を残したいなと思って活動をしていまして、地域がどうあるべきか、これからの子供が育つ環境について、下関がどうあるべきかを勉強しつつ、保護者の立場にもなりつつ、皆さんと一緒に検討していけたらなと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、次第の3、諮問に移ります。</p> <p>事務局は、準備をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、これより諮問を行います。</p> <p>児玉教育長お願いします。</p>
<div data-bbox="336 1742 549 1780" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教育長、移動</div> <div data-bbox="336 1794 549 1832" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">静屋会長、起立</div>	
児玉教育長	<p>下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会長 様</p> <p>下関市教育委員会</p> <p>下関市立の小学校及び中学校の適正な規模及び配置について（諮問）</p>

発言者	内容
会長	<p>本市では、少子化の進行等により小中学校の児童生徒数が減少する中、学校が小規模化し、教育上又は学校運営上の様々な課題が生じております。教育委員会では、これらの課題を解決するため平成21年度に下関市立学校適正規模・適正配置基本計画（第1期）を策定、平成27年度には第2期計画を策定し、市立小中学校の適正規模・適正配置の取組を進めてまいりました。</p> <p>第2期計画の計画期間においては、平成28年度に殿居小と豊田中小を、平成29年度は神田小と桜山小を、令和元年度は神玉小、神田小及び滝部小をそれぞれ統合してきたところですが、計画策定から既に5年の歳月が経過し、現行の計画は令和元年度末をもってその期間を終えます。</p> <p>よりよい教育環境を創出するためには、引き続き適正規模・適正配置の取組を推進することが重要であります。一方、現在の取組における課題を踏まえながら、第3期計画を策定する必要があります。</p> <p>つきましては、第3期計画の策定にあたり、下記の事項について、貴会の意見を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市立小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について</li> <li>2. 市立小中学校の適正規模・適正配置の具体的な方策について</li> <li>3. 市立小中学校の適正規模・適正配置の実施に関する事項について</li> </ol> <p>以上でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p><b>教育長から諮問書を静屋会長に手交</b></p> <p><b>静屋会長、着席</b></p> <p><b>教育長、席に戻る</b></p> <p>ただ今、諮問書を頂戴しました。事務局で写しがあれば、委員の皆さんに配付していただけますでしょうか。</p> <p><b>事務局で写を配付</b></p> <p>諮問事項は</p> <p>「1. 市立小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について 2. 市立小中学校の適正規模・適正配置の具体的な方策について 3. 市立小中学校の適正規模・適正配置の実施に関する事項について」であります。</p> <p>今後、委員の皆さんのご意見を伺いながら検討していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第の4、議事の（1）会議の公開に移りたいと思っております。はじめに、事務局から説明をお願いします。</p>

発言者	内容
事務局	<p>はい。それでは、会議の公開について、ご説明いたします。本件につきましては、冒頭で、簡単にご説明したところでありますが、傍聴手続きなどの詳細について説明いたします。まず、確認ですが、お手元の資料2をお願いします。下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会規則であります、この規則第6条において、会議は公開とするとされております。ただし、委員会が必要と認めるときは、非公開とすることができるかとされております。例えば、統合モデルの検討などにつきましては、公開することで、その後の審議に支障をきたす可能性もありますので、委員会で非公開の議決がありましたら、非公開と取り扱わせていただきます。</p> <p>では、お手元の資料4をお願いいたします。下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会公開要領（案）でございます。この公開要領は、会議の公開に関し、傍聴手続きなど必要な事項を定めようとするものです。</p> <p>内容を説明いたします。</p> <p>第2条、公開について、会議の公開は傍聴によるということ。</p> <p>第3条、傍聴の手続について、傍聴しようとする者は、傍聴申込書に住所、氏名等を記入するということ。</p> <p>第4条、傍聴人数の制限について、会場の広さなどで、傍聴しようとする者の人数を制限できるということ。</p> <p>第5条、傍聴することができない者として、酒気を帯びていると認められる者など、4つ挙げております。</p> <p>第6条、傍聴者の遵守事項として、みだりに傍聴席をはなれない、飲食又は喫煙をしないなど、8つ挙げております。</p> <p>第7条、傍聴者の退場について、会議を非公開とする議決があったとき、会長が傍聴を禁じたとき又は傍聴者の退場者を命じたときは、直ちに退場しなければならないということ。</p> <p>第8条、その他、この要領で定めるもののほか、公開に関し必要な事項は会長が定めるということでもあります。</p> <p>内容は以上でございますが、特にご意見がなければ、本日付で施行したいと思います。</p> <p>説明は以上であります。ご審議の程よろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、事務局から公開要領の説明がありました。委員の皆さんから、ご意見はありますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p>

発言者	内容
委員	異議なし
会長	<p>それでは、公開要領については、原案どおりとします。よろしいでしょうか。</p> <p>事務局からは、よろしいですか。</p>
事務局	はい
会長	<p>はい。では、よろしく申し上げます。</p> <p>次に、(2) 市立小中学校の現状と現行計画の進捗状況に移りたいと思います。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>はい。それでは、資料5から資料13までをご説明いたします。</p> <p>本日の資料は、資料自体も多くなっておりますのでポイントを絞って概要を説明させていただきます。</p> <p>まず、資料5、現行の「下関市立学校適正規模・適正配置基本計画」をお願いします。</p> <p>本計画につきましては、平成25年10月に市立学校適正規模適正配置検討委員会を設置し、8回にわたる審議を経まして、平成26年6月に答申がございました。その後、平成27年1月に、文科省において約60年ぶりに学校統廃合の指針となる手引が見直しをされ、新たに「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が示されました。これらの答申と手引を踏まえまして平成27年8月に下関市立学校適正規模・適正配置基本計画の第2期計画として策定したものでございます。</p> <p>表紙をめくっていただいて目次をご覧くださいと第1章から第5章までございます。先ほどお諮りした諮問書に記載されております各項目、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市立小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について</li> <li>2. 市立小中学校の適正規模・適正配置の具体的な方策について</li> <li>3. 市立小中学校の適正規模・適正配置の実施に関する事項について</li> </ol> <p>これらは、基本計画のそれぞれ第3章、第4章、第5章に対応しております。端的に申しますと、第3期計画の策定に向け、第3章から第5章の内容について見直していくということになります。</p> <p>そこで、現行の基本計画ですが、まず、資料の7ページをお願いします。「第3章 適正規模・適正配置の基本的な考え方」についてです。</p> <p>「1学級当たりの児童・生徒数」につきましては、法令に基づく1学級当たりの</p>

発言者	内容
	<p>児童・生徒数は、小学校1年生で35人、他の学年については、小中学校ともに40人でしたが、山口県の独自の取り組みとして、小中学校全学年において35人学級を実施しておりましたので、これに基づくものとしています。</p> <p>そして、「適正な規模の考え方」です。学校教育法施行規則等の法令を参考に小中学校とも12学級から18学級までを適正規模、19学級から24学級までを適正規模の許容範囲とし、適正規模に当てはまらない学校を「検討対象校」としております。</p> <p>これを踏まえまして、資料の6ページに戻ります。図表6は、平成26年度に試算しました平成32年度、令和2年度になりますが、計画の標記に従いまして平成で説明させていただきます。</p> <p>平成32年度の学級数別の学校の分布を示したものであります。この時点では小規模の検討対象校が、小学校で離島を除き33校、中学校15校、大規模の検討対象校が小学校1校です。</p> <p>改めて7ページをお願いします。次は、「適正な配置の考え方」です。通学距離につきましては、法令の指標を参考に小学校では概ね4km以内、中学校では概ね6km以内とし、通学所要時間は概ね1時間以内としております。</p> <p>次に「第4章 適正規模・適正配置の具体的な方策」についてです。資料の8ページ、9ページにつきましては、「適正規模・適正配置の検討対象校」のうち、具体的な取り組みを推進する「優先対象校」を定めています。</p> <p>図表7で示している旧下関市中心部においては、小中学校ともに平成32年度推計で6学級以下の学校を、旧下関市周辺部と旧豊浦郡部については、5学級以下の学校を優先対象校としております。</p> <p>続きまして10ページをお願いします。「適正規模適正配置の手法」として、「学校統合」と「小中一貫教育の導入」を挙げております。</p> <p>「学校統合」は、小学校同士、中学校同士の統合を基本とし、適正規模化を確保する手法として位置付けています。また、地域の状況によっては、通学区域の見直しも検討することとしております。</p> <p>一方、「小中一貫教育の導入」については、適正規模・適正配置の一つの手法として、よりよい教育環境を実現することを目指すものです。</p> <p>また、「学校統合の組み合わせ」として「統合モデル」を11ページの統合モデル図でお示ししております。</p> <p>この統合モデル図、統合校⑨のうち、殿居小と豊田中小。統合校⑫のうち旧市の神田小と桜山小。統合校⑬の豊北の神田小と神玉小と滝部小が統合しております。そして、来年3月には、角島小、阿川小、栗野小、滝部小が閉校し、新年度には新たに豊北小学校が開校する予定となっております。</p>



発言者	内容
	<p>続きましてページが飛びますが、19ページ以降に、「第5章 適正規模・適正配置の実施に関する事項」を示しております。</p> <p>まず、「学校統合の実施手順」として、教育委員会と保護者や地域住民が、幅広く意見交換を行い、学校を取り巻く現状や課題などについて情報共有を図ることを目的とした、「学校統合に関する意見交換会」を実施すること。</p> <p>この意見交換会で学校統合への方向性が示された場合は、次の段階として、地域住民が主体的に学校統合について協議する「学校統合検討協議会」、これは仮称ですが、(これ)を設置いたしまして、学校統合の必要性、統合校の位置など、学校統合に関する基本的事項について協議し、地域の考え方を示していただくこと。</p> <p>次に、学校統合検討協議会での協議結果を「要望書」など書面で市長及び教育長に提出すること。これをもって住民と行政の合意という位置づけをしているところでございます。</p> <p>そして、統合に向けて「学校統合準備協議会(仮称)」により、統合に向けた具体的な内容を協議していくこと。などを、手順として示しております。</p> <p>また、学校統合の実施手順につきましても、地域の状況に応じ、柔軟に対応しながら進めていくことを可能とするということもなかに述べております。</p> <p>続きまして22ページからは、適正規模・適正配置における、「小中一貫教育導入の目的」や「導入手順に関する基本的な考え方」を示しております。</p> <p>次の23ページでは、「学校統合に当たって配慮すべき事項」について言及しております。</p> <p>以上が現行計画の概要となっております。</p> <p>続きまして、資料6「下関市立学校適正規模・適正配置事業について」をご覧ください。</p> <p>はじめに、これまでの主な取り組み状況ですが、平成21年度に第1期の下関市立学校適正規模・適正配置基本計画を策定し、豊田西中と豊田東中を統合し豊田中学校として開校したこと。平成25年度に第2期計画の策定に向け、新たに下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会を設置、検討するなかで、平成26年度に三豊小・二見小を閉校、平成27年度には、田耕小と滝部小を統合しております。また、8月には、第2期計画を策定しております。</p> <p>第2期計画における取組状況は、先ほどの教育長からのお話しにもございましたとおり、平成28年度には、殿居小と豊田中小を、平成29年度には旧市の神田小と桜山小を、今年度は、豊北の神玉小と神田小と滝部小を統合しております。また、先程も申し上げましたが来年3月には、角島小・阿川小・栗野小・滝部小を閉校し、新年度には豊北小学校を開校する予定となっております。</p> <p>現在の事業課題といたしましては、第3期計画策定に向けまして「下関市立学校</p>

発言者	内容
	<p>適正規模・適正配置検討委員会」の設置、会議の開催が目標の一つとなっております。</p> <p>学校統合に関するものとしては、先ほども触れましたが、豊北地区4小学校の閉校と豊北小の開校と、名陵中学校区の新しい学校づくりに取り組んでいるところでございます。</p> <p>続きまして、児童生徒数や学級数、人口に関する動態について説明します。</p> <p>資料7「小学校の児童数及び学級数の現状」、資料8「中学校の児童数及び学級数の現状」を説明いたします。現行計画を策定しました平成27年度と最新の令和元年度の児童生徒数・学級数の比較であります。右端の列に増減率を示していますが、増加している校区は僅かで、全体的には減少傾向となっております。この4年間で、小学校は3.5%、中学校は8.3%減少しております。1年あたりで見ますと、小学校では111人、中学校では131人ほど減少しておりますので、学校規模で申しますと、養治小学校と向洋中学校と同規模の学校の児童生徒が毎年減少しているという状況にあります。</p> <p>続きまして資料9「令和元年度 学級数別の学級数と児童・生徒数」をご覧ください。</p> <p>第2期計画における学級数を基準とすると、小学校では検討対象校が29校、中学校においては15校となっております。</p> <p>次に、資料10「中核市の1小学校あたりの平均児童数」、資料11「中核市の1中学校あたりの平均生徒数」をご覧ください。類似団体として、他の中核市との比較を示したものです。下関市は中核市の中でも人口が少ない反面、面積は広く、人口密度が低いという特徴がありますので、単純な比較だけで議論はできませんが、小学校の平均児童数は中核市の中でもきわめて少ない253人となっております。中学校についても、261人となっております。</p> <p>続きまして、資料12「地区別人口」をご覧ください。下のグラフにありますとおり、山陽地区の一部地域、勝山地区で若干の増加はみられるものの、市全体として、人口減少が顕著にみられております。また、この5年間での人口減少率は4.1%ですが、先ほど資料7、資料8にありました小学校児童の減少率3.5%、中学校生徒の減少率8.3%と比較しますと、小学校児童の減少率は、全体の人口減少率よりは低くなっていることがわかります。</p> <p>最後に、資料13「第3期下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定スケジュール」についてご説明いたします。</p> <p>平成30年度より、本検討委員会の設置のための条例整備を行いまして、5月から公募委員の公募を開始、10月には、他の委員の皆様にご委員就任のお願いをいたしまして、本日の第1回検討委員会に至っております。</p>

発言者	内容
会長	<p>今後につきましては、本日諮問された内容について、第2回以降に検討を深めていただき最終的には、来年10月頃を目安として、第3期計画を策定することを目指しております。</p> <p>事務局からの説明は以上になります。</p> <p>ありがとうございました。ただいま、事務局から、市立小中学校の現状と現行計画の進捗状況についての説明がありました。</p> <p>ここで、今後の基本計画見直しの議論に向けまして、委員の皆さんの小中学校の現状や現行計画に対する意見や感想、また課題と考えていることなど、伺いたいと思います。</p> <p>その前に、先ほどの説明でなにか質問がありましたらお願いしますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ちょっといいですか。議論に入る前に確認したいんですけども、先程平成27年1月に、文科省から学校統廃合の見直しで、一連の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きが出されたとあるんですけども、これは27年1月からすると4年たっているんですけども、これはこのままできているということでもいいんですかね。それとも、途中変更があったとかないんですか。</p> <p>それが一つと、この見直しがどういうふうな見直しが文科省から出たのかということに興味があるんですけども。</p> <p>出来れば次回の会議にでも、示してもらったと思うのですが。お願いいたします。</p>
事務局	<p>承知いたしました。次回の会議には、準備しご説明出来るようにしたいと思います。</p>
会長	<p>その他ご質問はございませんでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、委員の皆さまのご意見や感想など伺いたいと思います。</p> <p>時間の都合もごさいますが、お一人1分程度でお願いしたいと思います。</p> <p>では、自己紹介と同じ順番でお願いいたします。</p>
委員	<p>私の専門の観点から申し上げますと、現在学校と地域の関わりって当然に深いものがあって、文科省の政策としても、地域学校協同活動っていうのを推進しているこの折に、この会議に生涯学習課のご担当の方がいらっしゃらないのではないでし</p>

発言者	内容
委員	<p>ようか。</p> <p>それは、学校のことですけれども、学校教育関係の教育委員会の先生方だけがお話を聞かれるのではなくて生涯学習課のご担当の方にも是非ご出席いただきたいというふうに思います。以上です。</p> <p>本当に今日示された統計資料を見ながら、子供達の数が減っていくとってもしんどい状況に、下関市があるんだなということを再確認いたしました。</p> <p>でも、登校にかかる時間は、文科省は一時間ぐらいと言っていますけど、なかなか子供達が一時間歩いて行くのも大変だし、そのなかで友達関係がどんなふうになっていくのかな、みたいなことも併せて考えていけたらなと思いました。</p>
委員	<p>先日、NHKの特別番組で、子供達の声なき声ということで、不登校について特集をやっていました。先生方も見られた方は居られるかと思うのですが、近年不登校の子供が全国的にじりじりと増えてきていると。全国で、中学生で40万人いると言うんですけども。10万人は、本当に学校に来ないと。あとの30万人は隠れ不登校ということで、学校に遅れて来たり、だまって早く帰ったり、保健室に入って教室に来ないとか、そういうふうな子供達らしいのですけれども、そこで色々な理由を言っていたのですけれども、学校が規則づくめで嫌だとか、学力向上、至上主義で嫌だとか、あるいは学校の先生が忙しそうで相談できないとか色んなことを子供達は言っているのですけれども、いずれにしても今は色々な問題が、人口減少あるいは友達が減っていくという色々な問題と絡んでいると思うんです。だからもう一つ一つ解していくしかないと思うんです。</p> <p>そういうことからすると適正規模・適正配置というのは本当にこれから重要な問題だとそういうふうに考えております。</p>
委員	<p>改めて資料を拝読させていただきましたが、非常に厳しい状況にある中で、適正規模・適正配置という観点で考える部分と、その前後にある文脈、数字だけの結果からどのような形で未来を作っているのかというのは大事なんですが、その数字だけでは正直厳しい部分があるかなと。</p> <p>で、先日関西小学校区の地域の運動会にも参加したんですが、もう9割5分高齢者という現状の中で、竹崎町の夏祭りの平家踊りに行ったんですけども、こどもはゼロだったんですね。これが、この数字に如実に出ているのが、関西小学校の予想とですね。5年前作られた計画から見ると現状は、30人の開き。要は、予想より遥かなスピードで児童数が減少しています。これは、地域の皆さんが危惧しているのですが、それに対しての打開策が基本的にこの計画ではなく、様々な部分、産</p>

発言者	内容
	<p>業振興や住宅政策等でも何か効果的な政策が打たれているかという、無いんですよ。</p> <p>ですからその部分で、適正規模・適正配置検討委員会で出来る範疇と、その前後にあることもどのようにしてこのなかに盛り込んでいくのか、それはやはり計画というところですので、そこだけやればいいということになってしまうとその先の未来が非常に暗くなってしまいますので。</p> <p>抽象的なところで大変恐縮なんですけど、先程委員が仰ってましたけど、この計画の数字だけの判断ではなくて、その内在するものの数字に落とし込みながら入れていくことが出来たらなと。</p> <p>特にICTであったりだとか、科学技術も進化していますので、通信教育含めた形での適正規模。無理に通学する必要が本当にあるのかというところも含めて考えていきたいなというふうに考えております。</p> <p>ちょっと長くなりましたが以上です。</p>
委員	<p>全く話がわからないのですが。</p> <p>僕は、子供がもう中学3年なのでこれで終わりなのですが、これからまた孫の時代になっていくなかで、もう小学校3年生と2年生がいるのですが、その中でこういうことに関わらせていただけるとするのはありがたいと思いますので。何も役には立ちませんがよろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>はい。普段あまりこういったことを考えていなくて、今色々知ったことがたくさんあるんですが、適正規模校から外れた検討対象校が、思った以上にこれだけあるんだなというのを感じたことと、平成24年から年々統合をしていっているという現状を改めて知りました。</p> <p>今後、今まで統合したところがこんなことで困っているとか、交通手段がどうか、そういったことも。反省点とかあるかもしれないし。</p> <p>そういうところも考慮しながら、今後の学校の、それぞれの地域の現状を踏まえて、検討していかないといけないなと感じました。以上です。</p>
委員	<p>通学距離と通学時間のところで、小学校4キロ、1時間以内、中学校が6キロ以内で1時間ということは、当然公共交通機関を使うとか、スクールバスを利用するというふうに書いてございますが、財政が厳しい中でどういうふうになるのか、どれぐらいの経費がかかるのかと、そういうことを検討されないと、と思います。それと、ちょっと気になるのは、教職員の配置と書いてありますけれども、適切な教職員の配置に努めますと、実際に子供が少なくなって統合されて、先生の数も。新</p>

発言者	内容
委員	<p>規採用をされるのならばいいですけど、現在いらっしゃる先生方がどうなるのかという点も、ちょっと気になるところでございます。以上です。</p> <p>資料を見せていただいて平成24年度に、豊田西中、豊田東中の統合ということで、私平成23年度までの2年間、豊田東中学校に勤務しておりましたので、その翌年から豊田中学校が開校したなど改めて思い出しました。</p> <p>その当時、スクールバスもあり、スクールタクシーもあり。子供達の通学もなかなか大変だなということを感じていたのを思い出しました。</p> <p>それと今現在、長成中学校が長府小学校と小中一貫の研究指定を受けておりまして2年間やって参りましたが、小中そして地域とのつながりというのが非常に大切だなということを実感しています。</p> <p>地域に学校がなくなっていくというのは、地域の活性化において懸念される場所があると思いますが、そのあたりも含めて色々と考えさせていただきたいなと思っております。</p>
委員	<p>失礼いたします。今、委員の方からもお話がありましたけれども、私も地域から小中学校が無くなる寂しさというのは、前任の周南の須磨小学校の時に感じておりました。地域に学校があるということで、子供達の声がそこに行けば聞けるというのは、すごく地域にとっては大事なことであるかなと思います。</p> <p>ただ、教育という観点から見た時に2点問題があるかなと思っています。</p> <p>一つは、小規模校では、かなり限界がありました。特に限界を感じたのは、子供達が多様な考えに触れるという機会を授業の中で持ちたいんですけども、あまりにも一学級あたりの人数が少なすぎて、いつも決まった子が答え、決まった考えに流れていきというようなところで、多様な考えに触れるというところでは、やはり随分小規模校というのは、大規模校に比べると不利な面があるなということを感じておりました。</p> <p>もう一つは、実際に統合があった中学校区に、一つ大きな問題が出てきたのが、中学校区が抱える地域が広くなりすぎて、地域としてのまとまりが無くなっていくというところを、現実を目にしておりました。それぞれの地域にはそれぞれの文化があり、伝統というものもありますけれども、そういったものを学校の中に取り入れていくということになった時に、一つ所を取り上げれば、他所のところも取り上げていかなければならない。どんどんドンドン取り上げるべきものが広がっていくというところで、地域の広がりとともに、学ばなければならない地域の学習というのがすごく広がって行ってカリキュラムのなかに組み入れていく難しさを感じております。</p>

発言者	内容
委員	<p>教育の観点からは2点ほど疑問を感じるがありました。以上です。</p> <p>失礼します。この表やグラフを見ると本当に現実の厳しさをつくづく感じました。実は、私も現勤務先の清末の前の幼稚園が、第三幼稚園と言いまして、私が休園というか、園をたたみました。最後は12人、特小で6人で終えていきました。この幼稚園は旧市内であったために、ドーナツ化現象になっていましたし、近隣には桜山、関西、神田小学校と、園の二階から見ると目の前に小学校が見えるような、本当にこんな近い所にあるんだというのをつくづく感じる地域でした。</p> <p>本当に、原田校長が言われたように、私も一番の悩みが人間関係の固定化でした。子供が少ないと、いい意味でも、悪い意味でも固定化するんです。いい意味では、とっても仲良しになります。困ったところをみんなで支え合って小規模ならでは。また、先生たちも、顔が見える、親の顔が見える、ホントに仲の良い幼稚園でした。</p> <p>ただ、皆で懸念していたのは、これから学校に行って大きな集団になった時にしっかり自分の思ったことが言えるだろうか。しっかり者のナントカちゃん、やさしいホンワカのナントカちゃん、そのまま、ずっとこれから先、小学校・中学校と行けるわけじゃないよねというのが、懸念としてありました。</p> <p>なので第三幼稚園が休園となった時も、そのことについては、地域の方にも保護者の方にも、これから子供達が、大きな社会で育っていくためには必要なことですよということで、納得もしていただき、それほど揉めることはなく休園にはなりました。</p> <p>これから、統合に関しては、そういう面を知っているの、仕方がないかなと思うのと。もう一点、統合なのか、小中一貫なのか、そこはすごく考えてほしいのと、今までも「地域の」って言葉が、たくさん出てきましたよね。単にくっつけるだけではなくて、小中一貫という形で地域に残した方がいいのではないかという地域もあるのではないかというのを、説明を聞きながら感じました。以上です。</p>
委員	<p>私は今、学校現場にいますので、昨年度閉校したときにどうだったかなというのを思い出しながら聞きました。</p> <p>保護者の方は比較的、統合ということにすんなり行ったように思うのですが、地域の方が、地域が寂しくなる、いままでやってる行事がなくなるということで、地域の方がとても寂しがられたような気がします。</p> <p>先程、初めにということで小規模校のメリットを最大限に活かすということをおっしゃったのですが、メリットとしては、学習面は、計算力とか漢字とかの習熟は、一人の教師が見る人数が少ないので、しっかり見ることが出来ると思います。ですが、短所は先程も言われたように、話し合いとかの時にどうしても3人くらいのお話し合</p>

発言者	内容
	<p>いになってしまって、発表力のある子の意見に流れてしまうっていうのは、よく見られました、</p> <p>また、小さい学校なので、言わなくても気心が知れているので、どうしても表現力というか、自分の考えを言うというのは、育てていきたいなと思いつつも、なかなか難しかったように思います。</p> <p>人間関係においては、先程もありましたように固定化する。気心がしてれているので、保護者の顔もよくわかるのでトラブルにはなりにくいという所があったと思いますが、大きい学校になると親の顔も知らないし、ということで、大きい学校に比べると（小規模校は）トラブルになりにくかったと思います。</p> <p>今、統合した子供達の保護者に会うことがあるんですけども、「どんな」って聞くと、「やっぱり友達がいるから良いよ」という保護者もいらっしゃいますし、「スクールバスなんで太ったよね」と。運動しない、歩かないから、「やっぱり太ってきたんよね」って言う保護者の方もおられて、良いと言われる保護者もあれば、やっぱり神玉の方が良かったという保護者もいらっしゃるので、このメリットを最大限に活かすというのをやらなくちゃいけないのだろうけど、難しいなというふうに思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。それぞれの委員の皆様の色んな観点からの貴重な意見がございましたけれども、今後、見直しの検討を進める上での論点として、それぞれ参考にしていきたいと考えております。</p> <p>私も、最初新採で着任した学校が、10年ほど前に閉校、廃校となりました。その時の閉校式に参加させていただいたのですが、地域の皆様がずっと覚えてくださっていたということと、これからのことを考えていこうとする何とも言えない表情というか、そして気持ちを伝えたいということをも今でも思い出します。それぞれの人たちの心をしっかり繋いでいって、それを活かしていくそういう取組みにしていければというふうに考えております。</p> <p>それでは、本日の議事については、これで終わりたいと思います。</p> <p>事務局から連絡等ありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。本日、いただいたご意見を踏まえまして、事務局で論点整理と次回の検討委員会に必要な資料、先程ご要望もありましたけれども、必要な資料を調製したうえで改めて次回の会議のご案内を差し上げたいと思います。</p> <p>いまのところ予定としては、年明け2月頃に第2回目が開催できればと考えております。</p>



発言者	内容
会長	<p>ただ今説明のあった内容について、質問等ありましたらお願いします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、本日の会議はここまでといたします。</p> <p>これを持ちまして、第1回下関市立学校適正規模・適正配置検討委員会を閉会といたします。</p> <p>どうもお疲れ様でした。</p>